

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 16 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25360052

研究課題名(和文) 歴史的視点による中国のジェンダー秩序に関する総合的研究

研究課題名(英文) A Comprehensive Study of Gender Order in China from an Historical Perspective

## 研究代表者

小浜 正子 (KOHAMA, Masako)

日本大学・文理学部・教授

研究者番号：10304560

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中国社会のジェンダー構造とその歴史的变化について家族を中心に検討し、中国社会のジェンダー秩序の特徴とその変化の画期を明らかにすることを目的とした。

研究の結果、前近代においては、滋賀秀三が論じたような中国の伝統家族が形成されたのは宋代以降であること、近現代については、五四新文化運動期に恋愛結婚による小家族が近代的知識人によって正統と考えられるようになり、人民共和国成立後の家族改革は普遍的にそのような家族を成立させようとしたこと、等が明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This research project examines the special characteristics of gender order in Chinese society and its changes over time, focusing on the family and its roles in gender structures. Among the results of our research are: (1) for the premodern era (Qin to Qing) we have shown that the "traditional Chinese family" as described in the work of Shiga Shuzo took shape from the Song dynasty; (2) and for the modern and contemporary period we have shown that Chinese intellectuals influenced by ideas about from the May Fourth Cultural movement about "love marriages" came to regard the nuclear family as the orthodox family type, and (3) that the "love marriage" style became the norm as a result of the family revolution under the PRC, etc.

研究分野：中国近現代史・中国ジェンダー史

キーワード：中国 歴史 ジェンダー 家族 セクシュアリティ 女性隔離 唐宋変革 男性性・女性性

### 1. 研究開始当初の背景

日本の中国研究は国際的にも高い水準で知られるが、その中においてジェンダーに関する領域はひどく立ち後れており、ひいては日本の中国認識にも偏りがもたらされている。本共同研究のメンバーは、このような状況を打開すべく平成 24 年度より人間文化研究機構現代中国地域研究プロジェクト拠点である東洋文庫現代中国研究資料室ジェンダー資料研究班を発足させて中国ジェンダー史共同研究を行ってきたが、本研究はこれと連携しつつ中国ジェンダー史研究を推進しようとして計画され、同共同研究のメンバーによって組織された。

### 2. 研究の目的

中国共産党の一党独裁下で急速な経済発展を続ける中国の国家社会のシステムに、ジェンダーは如何に構造化され秩序づけられているのか。本研究は歴史的視点からこれを構造的に把握するための基礎研究を行うものであり、以下の研究目標を設定した。

(1) 中国社会の伝統的ジェンダー秩序の特質の位置づけ、(2) 近現代中国のジェンダー関連政策とジェンダー秩序の変容の構造的把握、(3) 近代から現在に至るジェンダー構造の変容過程のアジア間の相互連鎖の解明、(4) 関連資料の収集と資料・研究情報の発信、成果共有のシステムの構築。

とりわけ、中国社会における家族のジェンダー構造の分析に焦点を当てた。その際、前近代においては、滋賀秀三のいう中国の伝統家族の理念型を、近現代においては「近代家族」モデルを、分析の際の参照軸とした。

### 3. 研究の方法

本研究においては、共同研究メンバー各人が国内および中国・台湾・アメリカなどの各地に史料調査に赴き、収集した史料を共有しつつ個別に研究を進めるとともに、2013～2014 年度には各年数回のワークショップおよび公開シンポジウムを開催してその成果を共有するとともに議論を闘わせて分析を深めた。

研究開始以来、開催したワークショップ・シンポジウムは以下のとおりである。

2013 年中国社会文化学会大会シンポジウム「中国のジェンダー構造の歴史の変容」  
2013 年 7 月 7 日(日) 於：東京大学(中国社会文化学会と共催)

シンポジウム<中国史における家族像の展開 滋賀「中国家族法」を歴史化する>2013 年 9 月 21 日(土) 於：日本大学文理学部

シンポジウム<ビジュアル・メディアとジェンダー>(共催あり)2013 年 12 月 15 日(日) 於：東洋文庫

シンポジウム<中国古代のジェンダー構造>2014 年 3 月 13 日(木) 於：東洋文庫

ワークショップ<現代中国のフェミニストムーブメント>2014 年 5 月 25 日 於：東洋文庫

ワークショップ<魏晋南北朝時代のジェンダー構造>2014 年 7 月 12 日(土) 於：日本大学文理学部

ワークショップ<唐宋変革とジェンダー秩序の変容>2014 年 9 月 15 日(月・祝) 於：東洋文庫

ワークショップ<紛争下の暴力とジェンダー>2014 年 10 月 18 日 於：日本大学文理学部

シンポジウム<現代中国におけるジェンダー・ポリティクスの新局面>2014 年 10 月 19 日 於：日本大学文理学部

2015 年度から、これらの成果を本研究メンバーの執筆による下記『ジェンダーの中国史』として刊行し、またシンポジウムの成果を同『現代中国のジェンダー・ポリティクス』として刊行した。さらに小浜正子・下倉渉・佐々木愛・高嶋航編『中国ジェンダー史研究入門』京都大学学術出版会、として近く刊行予定である。

### 4. 研究成果

(1) 滋賀秀三の提出した中国の伝統家族の理念型(以下、滋賀「中国家族法」)は、現在までの研究の到達点と言えるもので、父系制の先祖の血統を伝え祭祀をする資格と財産の相続権が表裏一体となった家族のあり方である。私たちはこのモデルを明清中国の家族のあり方として基本的に承認しながらも、そのような家族像は中国史を貫いて早い段階から存在したのではなく、中国社会の歴史的变化の中で形成されてきたものだと考え、その「歴史化」を多角的に試みた。

史料的に、滋賀「中国家族法」のような財産相続のあり方は近世以降にしか確認されていない。論理的にも、滋賀が父系の祭祀と財産相続を基礎づけると考える「父子同気」といういい方は朱熹以降にしか見られず、したがって朱子学的な家族観念と親和性の高い滋賀「中国家族法」は朱子学の時代以降でしか成立し得ないことが、研究協力者の佐々木愛によって明らかにされた。

(2) ではそれ以前の時代の家族像は、どのようなものであったのか。中国では文字に書かれた歴史時代の初めから家族は父系制が基本ではあったが、漢代以前には母系の血縁も同族と見なすような親族観念が一般的に認められており、厳格な父系制の親族観念は徐々に強化されていったことが、研究協力者の下倉渉によって、多角的に明らかにされている。

(3) 宋～明清の中国近世社会では、女性への厳しい貞節の要求や、女性隔離などのジェンダー規範が強化されていった。(これらは、唐代以前の中国社会ではあまり見られな

った)

以上より、中国前近代社会の家族構造やジェンダー秩序は、唐代以前と宋代以降ではかなり大きな断絶があると考えられる。日本の中国史学界では唐代と宋代の間に大きな社会構造の変化があったとする「唐宋変革」がひろく論じられているが、本研究はジェンダーの視点から「唐宋変革」論を支持するものである。

なお、男女を空間的に隔離するべきだというジェンダー規範は、日本近世にはほとんど見られなかったものであり、このような違いについても、今後さらに研究が深められる必要がある。

(4) 19世紀末からの中国近代の社会変化の中で、あるべき男性像は大きく変化した。前近代中国社会における覇権的男性性は文人士大夫に具象化されており、「武」は「文」より下位に置かれていたが、清末の亡国の危機の中で救亡を担うべき軍人があるべき男性性を体現するようになり、「軍国民」の創造がめざされるようになった。中国近代の「男らしさ」の規範の変化については、研究分担者の高嶋航が具体例を豊富に示して明らかにしている。

(5) 中国近代の社会変化の中でのジェンダー構造の変化を、とくにナショナリズムとの関連において論じたのは研究分担者の坂元ひろ子である。彼女は従来のナショナリズム研究にジェンダー視点が不十分であることを指摘しつつ、男性や女性の身体への視線にどのようにナショナルな意識が関連するかに注目した。特に中国女性を象徴するされた纏足が、前近代の中国の優れた文化の表象から、近代になって遅れた中国の代表へと、その意味するものが「国粋から国恥へ」変化する中で女性の置かれた複雑な状況を丁寧に読み解いている。

(6) 中国近代の家族改革をめぐる議論は、五四新文化運動期に男性知識人によって始められやがて女性知識人も参画していった。愛・性・結婚をめぐる多様な意見の闘わされる何度かの論争の中で、封建的な伝統家族は批判され、恋愛結婚による小家族があるべき家族像だという意識が新式知識人に共有されてゆく。その家族像は、愛・性・結婚・生殖の四位一体になっているという点では、西洋近代にあるべき家族と考えられるようになった「近代家族」と似通っている。しかし恋愛による小家庭の束縛を論じた議論は当時から現在も賛同を得ることができず、それでは現在の婚姻制度やジェンダー構造の見直しにはつながらないと、研究分担者の江上幸子は指摘している。

(7) 中華人民共和国成立後の家族改革は女性解放・男女平等を前面に押し出し、親が決

める封建的な結婚を破棄して当事者間の愛情に基づいた家族を広範に形成するようにした。しかしそこでは通い婚や同性関係や非婚など、規範的な結婚以外の結婚と家族のあり方は否定され、国家による個々の家族への介入も強まった。生殖も国家が介入するようになり、社会主義建設に貢献するべく計画出産が図られる様になってゆく。研究代表者の小浜正子は、こうした中華人民共和国のジェンダー秩序が実現した一定程度の女性解放と新たな抑圧について検討している。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計11件)

高嶋 航「なぜ baseball は棒球と訳されたか: 翻訳から見る近代中国スポーツ史」『京都大学文学部紀要』第55号、2016年3月、81-133頁。(査読無)

高嶋 航「探検の客体から探検の主体へ 近代中国の学术界とナショナリズム」石川禎浩編『現代中国文化の深層構造』京都大学人文科学研究所、2015.6、131-182頁。(査読無)

江上 幸子「20世紀20年代中国的性愛討論張競生、丁玲等の非主流観点」『丁玲研究』35号、2015年4月、96~106頁。(査読無)

坂元 ひろ子“Chinese and Japanese Women Represented in Cartoon Magazines during the Anti-Japanese War Period”(原タイトル韓国語)延世大学国学研究院編『東方学志』4巻169輯、2015年、1-32頁。(査読有)

江上 幸子「一九二〇年代中国のセクシュアリティ論議ー張競生、丁玲らによる異論」『中国ー社会と文化』29、2014年。(査読無)

高嶋 航「戦時下の日本陸海軍とスポーツ」『京都大学文学部研究紀要』第53号、2014年3月、47-141頁。(査読無)

坂元 ひろ子(弘子)「再論 復『天演論』 翻譯的創造性ー有閑選訳赫胥黎原文文本的問題」陳鼓應編、生活・読書・新知三聯書店『道家文化研究』(第二十八輯) 復専号、2014年、133-157頁。(査読無)

坂元 ひろ子(弘子)「辛亥革命与社会性別」四川辛亥革命暨尹昌衡國際學術研討会組委會編、中国社会科学出版社『四川辛亥革命暨尹昌衡國際學術研討会論文集』2014年、124-140頁。(査読無)

江上 幸子「丁玲 近代中国のジェンダー秩序への抗い」(趙景達ほか編『講座東アジアの知識人3』2013年12月、294~311頁)。(査読有)

坂元 ひろ子(弘子)「近代中国漫画及其伝播与世界文化 広告/漫画、全球/民族主義、社会性別」『近代思想史研究』通巻10号、200-219頁、社会科学文献出版社(北京)、2013.12。(査読無)

高嶋 航「上海セント・ジョーンズ大学スポーツ小史(1890-1925)」森時彦編『長江流域社会の歴史景観』京都大学人文科学研究所、2013年9月、303-346頁。(査読無)

[学会発表](計12件)

江上 幸子「近代中国の主体妓女表象及其夭折 探求於民国時期多種媒体中」中国社会科学院文学研究所主催『社会史視野下的中国現当代文学 以丁玲為中心』會議、2015.10.27、中国社会科学院、北京(中国)。

小浜 正子「教材実例としての「慰安婦」問題～研究の到達点を踏まえた教育実践と市民の育成」日本学術會議公開シンポジウム「歴史教育の明日を探る 「授業・教科書・入試」改革に向けて」、2015年8月1日、於：日本学術會議(東京)。

Masako KOHAMA, "Birth Planning and Transformation of Rural Families in China", Nanyang Technological University Singapore (Singapore), 31th May, 2015.

坂元 ひろ子 "über Comic-Zeichnerinnen im kolonialen und modernen Shanghai und über Krieg - aus postkolonialer Perspektive" (ドイツ語タイトル), International workshop: [Banned Images], 2015, 4. 19, nGbK (新視覚芸術協会), ベルリン(ドイツ), 招待講演。

坂元 ひろ子「作为“早期全球化”的近代与章太炎」(中国語)「章太炎の解読与現代中国思想」国際ワークショップ、東京大学(東京) 2014.11.29。

小浜 正子「ジェンダー史教育の取り組み - 歴史教育のジェンダー主流化へむけて」史学会・大阪大学歴史教育研究会共催「高大連携による大学歴史系専門教育・教員養成教育の刷新」シンポジウム、2014.9.14 於：大阪大学。

坂元 ひろ子「抗日戦争期の中国漫画におけるジェンダー表象」, シンポジウム「ビジュアル・メディアとジェンダー」, 2013.12.15, 東洋文庫、東京。

坂元 ひろ子「試論章太炎の道家、仏教思想及其对身体、性和医学的看法」, 学術研討会「中国传统文化反思与展望」, 2013.12, 北京大学, 北京(中国) 2013.12.6。

高嶋 航「極東スポーツ界の軌跡：戦前の中国・朝鮮・日本・フィリピンを中心に」日本体育学会、2013年8月29日、立命館大学(京都)。

小浜 正子「中国農村計画生育の普及 - 圍繞生殖的技術与権力」社会文化与近代中国社会轉型” 五届中国近代社会史国際學術討論会、2013.8.25 於：襄陽(中国)。

Hiroko SAKAMOTO, "Chinese and Japanese Women Represented in Cartoon Magazines during the Anti-Japanese War Period", International Conference "The Cultural Location of Women in Korea (and Japan/China), 1600-1945, in the Context of East Asian Society, 2013.8.15, The University of British Columbia(USA)。

Masako KOHAMA, "Birth Planning in Socialist China: The Cases of Two Villages from the 1950s to the 1970s", 24th International Congress of History of Science, Technology and Medicine (ICHSTM 2013) Manchester University, Manchester (United Kingdom), 23 July 2013

[図書](計8件)

小浜 正子・秋山 洋子編『現代中国のジェンダー・ポリティクス - 格差・性売買・「慰安婦」』勉誠出版、2016年、全256頁。

坂元 ひろ子『中国近代の思想文化史』岩波新書、2016年、全298頁。

小浜 正子編『ジェンダーの中国史』(アジア遊学191)2015年、全295頁。(佐々木 愛「むすめの墓・母の墓 墓から見た伝統中国の家族」8~20頁、下倉 涉「異父同母という関係 中国父系社会史研究序説」21~32頁、小浜 正子「現代中国の家族の変容 少子化と母系ネットワークの顕現」43~53頁、秋山 洋子「江青 女優から毛沢東夫人、文革の旗手へ」91~104頁、板橋 暁子「木蘭故事とジ

エンダー『越境』五胡北朝期の社会からみる」105～118頁、高嶋 航「辮髪と軍服 清末の軍人と男性性の再構築」119-132頁、江上 幸子「『鉄の娘』と女性民兵—文化大革命における性別役割への挑戦」133～146頁、五味 知子「貞節と淫蕩のあいだ 清代中国の寡婦をめぐる」174～185頁、姚 毅「中国における代理出産と『母性』 現代の『借り腹』」202～210頁、白水 紀子「セクシャリティのディスコース 同性愛をめぐる言説を中心に」211～223頁)

スーザン・マン著、小浜 正子+L. グローブ監訳、秋山 洋子+板橋 暁子+大橋 史恵訳『性からよむ中国史 - 男女隔離・纏足・同性愛』平凡社、2015年、全316頁。

高嶋 航『軍隊とスポーツの近代』青弓社、2015年、440頁

三成 美保・姫岡 とし子・小浜 正子編『歴史を読み替える - ジェンダーから見た世界史』大月書店、2014年、全314頁。

小浜 正子・松岡 悦子編『アジアの出産と家族計画 - 「産む・産まない・産めない」身体をめぐる政治』勉誠出版、2014年、全286頁。

梁 啓超著、高嶋 航訳注『新民説』平凡社、2014年3月、528頁

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

小浜 正子 (KOHAMA, Masako)  
日本大学・文理学部・教授  
研究者番号: 10304560

### (2) 研究分担者

坂元 ひろ子 (SAKAMOTO, Hiroko)  
一橋大学・社会学研究科・特任教授  
研究者番号: 30205778

高嶋 航 (TAKASHIMA, Ko)  
京都大学・文学研究科・准教授  
研究者番号: 10303900

江上幸子 (EGAMI, Sachiko)  
フェリス女学院大学・国際交流学部・教授  
研究者番号: 90277955

### (3) 連携研究者

なし

### (4) 研究協力者

秋山 洋子 (AKIYAMA, Yoko)

駿河台大学・現代文化学部・元教授

板橋 暁子 (ITAHASHI, Akiko)  
東京大学・人文科学研究科・博士課程

大橋 史恵 (Ohashi, Fumie)  
武蔵大学・社会学部・准教授

五味 知子 (GOMI, Tomoko)  
日本学術振興会・特別研究員

佐々木 愛 (SASAKI, Megumi)  
島根大学・法文学部・准教授

下倉 渉 (SHIMOKURA, Wataru)  
東北学院大学・文学部・教授

白水紀子 (SHIROUZU, Noriko)  
横浜国立大学・都市イノベーション学部・教授

リンダ・グローブ (Linda GROVE)  
ハーバード大学・イェンチン研究所・研究員

姚 毅 (YAO, Yi)  
東京大学・教養学部・非常勤講師